

# 春日井ロータリークラブ 2017～2018年度 WEEKLY REPORT



クラブテーマ

～ロータリアンの第一歩は、まず例会に出席しよう  
そして、会員同士をよく知り「アットホーム」なクラブにしよう～

会 長 : 近藤 太門 例会日 : 金曜日 12:30～13:30  
副 会 長 : 加藤 久仁明 例会場 : ホテルプラザ勝川  
副 会 長 : 野浪 正毅 事務局 : 春日井市鳥居松町5-45  
幹 事 : 加藤 宗生 T E L : (0568) 81-8498  
会報委員長 : 古屋 義夫 F A X : (0568) 82-0265  
E-mail : Ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

ふれあい緑道

## 本日のプログラム

2018年6月15日(金)2370回(6月第3例会)

- |              |         |         |
|--------------|---------|---------|
| ・点 鐘         | 司 会     | 会場委員会   |
| ・ROTARY SONG |         | 近藤 太門君  |
| ・今月の歌        | 「奉仕の理想」 |         |
| ・ビジター紹介      | 「故郷」    |         |
|              |         | 近藤 太門君  |
| ・食事・歓談       |         | 一ノ瀬 芳翠様 |
| ・委員会報告       |         |         |
| ・祝福          |         |         |
| ・卓話          |         | 一ノ瀬 芳翠様 |
| ・幹事報告        |         | 加藤 宗生君  |
| ・点 鐘         |         | 近藤 太門君  |

## 今月の歌

「故郷」  
うさぎ追いし かの山  
小鮎つりし かの川  
夢はいまも めぐりて  
忘れがたき 故郷

## 先週の記録

### 会長挨拶

会長 近藤 太門君

消防署員の皆さん毎日のお仕事ご苦労様です。今日は大谷消防長もお越し頂いておりますので、ロータリーの会長としてではなく一市民として日頃より感じている事をお話させていただきます。昔は、と言っていつが昔かわかりませんが、消防車や、救急車のサイレンの音が近づくとを聞くと、素早く交差点を避けて緊急車両を優先して道を譲ったものですが、最近はそのようなようです。最近車の機密性が大変に良くなり外の音が聞きにくくなり、又、車内のオーディオのせいもありサ

### ロータリー親睦活動月間

	6月22日(金)	6月29日(金)	7月6日(金)	7月13日(金)
例会予定	IDM 18:00～ ホテルプラザ勝川	休会(定款8-1)	第1回理事会 10:30～ 第1回クラブ協議会 11:15～ クラブフォーラム 全員協議会	祝福 クラブフォーラム

イレンの音を気にしていない車をたまにみかけます。署員皆さんはいち早く現場に到着したのに、交差点では一時停止状態で確認をしながらの運行状況では、大変だなあと思っています。救急車のサイレンを最近頻りに聞くようになってしまっ市民の方もあまり緊張感が薄いのかも、いずれにしても人の命を預かる大事なお仕事ですので、大変ですけど頑張ってください。

## 幹事報告

幹事 加藤 宗生君

第3回持ち回り理事役員会

下記の審議事項につきまして、可決承認されました。

議案：内藤 修久君入会の件

議案：小野寺 誠君退会の件

\*6月15日(金)

祝福

\*卓話 一ノ瀬 芳翠様

## 今月の祝福

### 会員誕生日

8日 神田 寛司君

12日 大橋 完一君

13日 加藤久仁明君

### 結婚記念日

6日 中川 健君

### 夫人誕生日

1日 大畑 一久君・三千代さん

16日 小川 茂徳君・育代さん

18日 藤川 誠二君・美由紀さん

## アテンダンス

17ヶ年 社本 太郎君  
12ヶ年 大畑 一久君  
3ヶ年 大原 泰昭君  
3ヶ年 近藤 秀樹君

## ◎例会変更のお知らせ

名古屋空港 R C	6月25日(月) 時間未定 夜間例会の為
岡崎南 R C	6月26日(火) 18:30~ 最終例会の為 マリエール岡崎
小牧 R C	6月27日(水) 時間未定 最終例会の為

## ◎例会休会のお知らせ

名古屋東RC 6月25日(月) 休会  
名古屋栄RC 6月25日(月) 休会  
愛知長久手RC 6月26日(火) 休会  
羽島RC 6月26日(火) 休会  
名古屋名東RC 6月26日(火) 休会  
犬山RC 6月26日(火) 休会  
名古屋城北RC 6月26日(火) 休会  
岩倉RC 6月26日(火) 休会  
名古屋大須RC 6月28日(木) 休会  
尾張旭RC 6月29日(金) 休会

## 出席報告

委員長 梅村 守君

会員 53名	欠席 22名	出席率 58.5%
先々週の修正出席	欠席 4名	出席率 92.5%

## ニコボックス報告

委員長 芝田 貴之君

○消防署の皆様毎日ご苦労様です。近藤 太門君  
○三上君ようこそ 青山 博徳君  
○入会おめでとうそして卓話に 場々大刀雄君  
○社本さんのおかげで寄道せずすみません 山田 治君  
○消防署の方表彰おめでとうございます。 和田 了司君  
○卓話を楽しみにしています  
足立 治夫君 小柳出和文君 小野寺 誠君  
加藤久仁明君 加藤 茂君 加藤 宗生君  
川瀬 治通君 貴田 永克君 北 健司君  
清水 勲君 社本 太郎君 宅間 秀順君  
成瀬 浩康君 野浪 正毅君 速水 敬志君  
古屋 義夫君 藤川 誠二君 屋嘉比良夫君  
○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

## 卓話 春日井市消防長

大谷 雅人様

皆様方には、日頃から、我々春日井消防の業務に

対しまして、格別なご理解とご協力をいただいております。高い席からではございますが、この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございます。只今は、春日井ロータリークラブから、私どもの職員に対し感謝状をいただき、光栄な想いでいっぱいです。授与いただきました職員達も、「春日井市民の安全な暮らしを守っていく。」という使命感を、より一層強くしたと思います。重ねて御礼申し上げます。本日は、貴重なお時間をいただきましたので、「消防の現状と、我々を取り巻く昨今の課題」についてお話をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。まず始めに、昨年、平成29年の火災・救急の状況をお伝えします。市内での火災は90件。そのうち建物火災は、全体の52%を占める47件が発生しました。平成27年に、49年ぶりに100件を下回った年間の火災件数は、27・28年と2年連続で87件を数え、3年連続で比較的落ち着いております。私が消防に足を踏み入れた昭和50年代半ばの頃は、年間200~250件程度の火災がありましたので、比べますと大幅に減少している状況です。当時を思いおこしてみますと、どの家庭でも家の周りに、紙類などの燃えやすいものが放置してあることが多く、毎年、憂さ晴らしの放火犯の格好の餌食となっていたようです。1当務24時間働く中で、犯人と追っ駆けっこをしながら10回近く出場したこともあり、右も左もわからない新米の頃から、現場の活動を通じて鍛え上げられたという記憶で懐かしい気がします。昨年珍しかったの事案は、9月中旬の台風後に、電線から火花がでていたという通報が相次ぎました。強風で運ばれた海水の塩分や不純物が、電線カバーの亀裂に入り込み通電しやすくなりスパークしたもので、テレビや新聞紙上でも取り上げられました。愛知県下でも150件程度。当市では2日間にわたり、ほぼ同時刻に6件・8件と集中して通報がありましたが、大事には至らない状況でした。また、10月には兵庫県明石市の市場で、34棟 約2,600㎡を焼く火災がありました。一昨年の新潟県糸魚川市に続き、木造密集地区における大規模な火災でしたが、死者が出なかったことが唯一の朗報でした。我々も市内の危険度の高い木造密集区域を指定して、延焼拡大した場合に、最悪どの位置で阻止していくのかなどの万全を期す対策を講じているところです。現在は、救命処置を施すために、多くの資機材を搬送するための人手が必要になったり、交通量の激しい道路における事案の二次災害の防止だったり、救急隊の活動をサポートするために消防隊が出動しております。毎日、市内のどこかで消防車のサイレンが鳴っており、「また火事かな!」と思いがちですけど、全国的にも火災件数は減って

きている現状です。この件数減少の要因としては、裸火の使用頻度の減少や、器具等のガスが遮断するように自動消火装置が備わってきたこと。また、野焼きなどの屋外での焼却行為が規制されたことや、内装材などが燃えにくい構造になったことなどが考えられますが、注目しているのは、平成20年6月から、当市でも義務付けを行いました住宅用火災警報器です。本来、延焼拡大するであろう事案が初期の段階で食い止められ、大事に至らなかった事例が、一昨年11件、昨年は15件ありました。当市では、台所と階段、寝室に設置していただくことをお願いしていますが、統計をとったところ、全部の場所に設置している家庭が73.5%、一部の設置を含めると88.8%という数字がでており、県内の平均を大きく上回ってはおりますが、火災における死者の7割は、65歳以上の高齢者です。設置推進から10年が経過した本年「知らないうちに電池が切れて作動しなかった。」などということのないよう、安心することなく更なるPRを実施しながら、火災による死者ゼロを目指してまいります。非常事態を早く知れば、自分の命や財産を守ることができるものです。適切な維持管理を行っていただくとともに、まだ設置していないご家庭へは、皆様からも早めのご購入を促していただきますようお願いいたします。

一方、救急関係に目を向けますと、昨年の救急件数は、一日あたり38件の13,801件と、過去最高の数字となりました。65歳以上の人口比率が増加していることに伴って、あと数年の救急要請は、右肩上がり進むと予想しています。救急需要の増加に対応するため、消防本部では常時9台の救急車を運用しています。119番通報があると、要請現場から一番近くにいる救急車が自動的に選別されるGISシステムを活用していますが、それでも119番の受信から現場に到着するまでの時間は、国の平均8.5分を大きく下回るものの7分かかっています。この時間を、如何に使うのが、救命の一番の重要なところ。ある早朝のJR春日井駅で、仕事に向う途中の青年が急に倒れ心肺停止状態になりました。運よく近くに居合わせた人数人が協力して、心臓マッサージを続けたり、駅からAEDを持ってきて電気ショックをしたりと懸命な処置が行われました。その効果も相まって1か月ほどの入院で無事職場に復帰することができたという事案がありました。人が集まってくる場所であったこと、近くにAEDが設置してあったことなど、好条件が揃っていればチャンスはやってきます。このような環境を少しでも作るために、消防本部では公共施設を含む市内380ほどの事業所の皆様に、非常時のAED貸出についてのご協力をいただくことができました。この設置情報を、通信指令室のディスプ

レイに反映しまして、119番要請の時に「近くにAEDがありますので・・・」と現場にいる方へ情報提供ができるような方法をとる環境づくりを行っています。しかしながら人を救うためには、AEDの設置とともに、勇気をもって応急手当のできる人を育てなければなりません。その場に居合わせた方をバイスタンダーと呼んでおりますが、その方により適切な応急手当が行われれば、大きな救命効果が得られることができます。さて、当市の災害状況についてお伝えをしましたが、ここからは、我々消防本部が抱えている課題のハラスメント対策についてのお話をさせていただきます。消防士の不祥事が新聞に掲載をされるたびに、他の自治体のことでありながら、「ドキッ！」とすることがあります。わが社でもパワハラ、盗撮、金銭横領、救急車の盗難と幾度も記事になり市民からお叱りを受けました。「何でこんなことが起こるんだろう！何を考えてるんだろう！」と疑問視することもあります。慣習に囚われず、時代に合った対応を心がけなきゃいけないと常々思っています。昔から消防といえば軍隊のようだ！といわれております。これは災害現場における活動規律を重んずるため、部隊で動く我々には欠かせないものです。私は諸先輩方の「ばかやろう！このやろう！くそたわけ！」の3つの言葉が、訓練中でも災害現場でも響き渡る時代に育ってきました。一方、最近の子はと言いますと、学校から帰るとランドセルを放り投げ、すぐに遊びに行った我々の頃と違って、一人でゲームやパソコンと格闘して育ってきている子が多く、機械にはもっぱら強いんだけど、自分から相手に飛び込んでいくという人間関係の積極さは物足りない気がします。「生身の人間を相手にしている職業なんだから、助けを求めて動揺している人への配慮ができないヤツは話しにならない！」と言いつつ聞かせていますが、いざとなると物怖じをしてしまいます。現場では、隊長が自分の部下に対して命令を発することは当たり前であり、現場を想定しての訓練の時も同様です。ちょっとしごかれるだけで、自分だけがいじめられていると思ひ込み、上司に対して不信感を抱き、「こんな先輩とは仕事できません！」と平然と言い放つことが多いというのも特徴です。反対に、学生の頃に、クラブ活動で上下関係を知り尽くした子は何食わぬ顔をしてついて来る傾向があり、最終的には覚えも早く、臨機応変の対応ができる職員になっていきます。ハラスメント問題は日頃の人間関係が重要視されず。相手のことを信頼していれば、いやがらせとは思いません。ここ何年間は、年間目標として「風通しの良い職場づくり」を掲げておりますが、まだまだ発展途上だということかもしれません。また、部下だけでなく上司にも問題はあります。仕

事をやらせるのはいいとしても、出した結果にはきちんと評価をしてあげるといふ、当たり前のことができない先輩職員もおります。人材を育てるといふことは、任せっきりにするのではなく「見ているよ！係わっているよ！」との姿勢を相手に示さなければなりません。そして最後は「ごころうさま！」で締めくくる。この魔法の言葉で、どれだけ救われるかわかりません。難しい仕事も、人と人の関係で実力以上のものを発揮し、目標に向って突き進み、達成感を得ることで一步ずつ社会人として成長していくものです。私は常日頃から、「事務所の姿は現場の姿！」。事務所でコミュニケーションが取れない部隊に、何が現場活動ができるものか！と思っています。私に与えられた業務は、今まで以上に「分かり合おうと努力する」・「任せてみよう」と思ふ職員を、そして「胸を張って最前線に立ち向かう」職員を育成することだと考えています。我々、春日井消防の任務は、与えられた309人の人員、72台の消防車両3,974基の消火栓と指定消防水利を含む458基の防火水槽といった消防力を効果的に運用し、市民の皆さんの安全・安心に対する負託に応えることにあります。盾となり市民を守る消防の責務を全うし、持てる力を遺憾なく発揮してまいりますので、今後もお力添えをいただきますよう、よろしくお願ひします。お聞き苦しいところもあつたと思ひますが、そろそろお時間がまいりました。ご参会いただきました皆様方の、益々のご発展とご活躍をご祈念いたしまして、終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

**会長挨拶 近藤 太門君**



**卓話 春日井市消防長 大谷 雅人様**



**消防職員表彰**



**入会式 三上 努君**



**例会風景**

